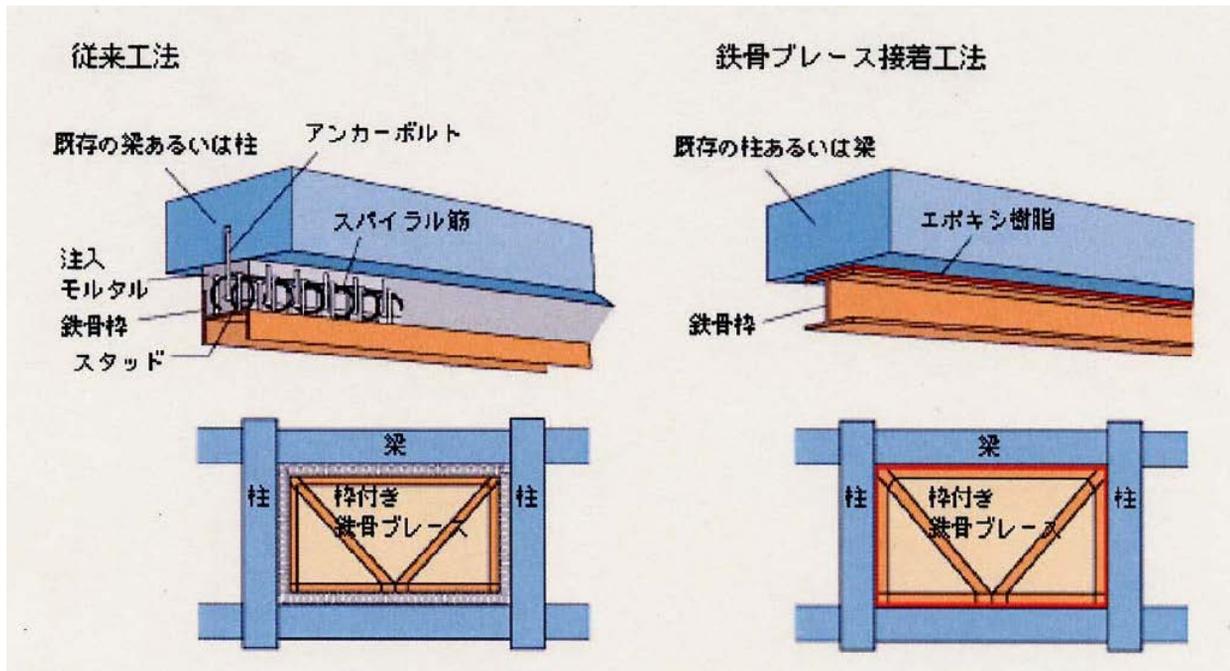


鉄骨ブレース接着工法

鉄骨ブレース増設時の接着接合工法

① 概要

「鉄骨ブレース接着工法」は、鉄骨ブレース増設による耐震補強工法のひとつで、従来工法のあと施工アンカーによる間接接合の代わりにエポキシ樹脂による接着接合で定着する工法です。

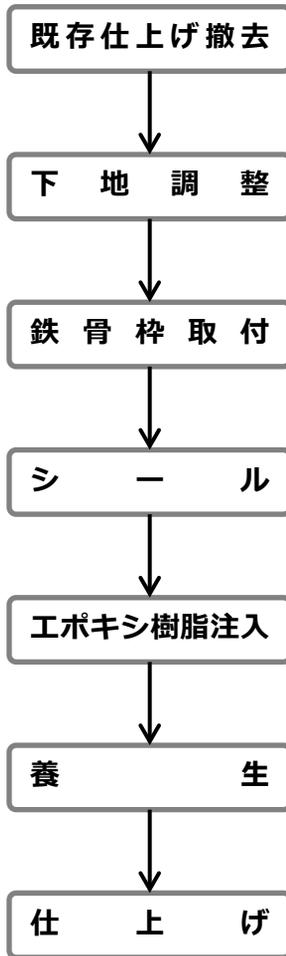


② 特徴

- あと施工アンカーの設置がないため、**騒音・振動・粉じんが発生しません。**
- 接着工法では工程が少ないため、**従来1構面あたり14日の工期が10日程度**で済みます。
- 従来工法ではあと施工アンカーがあるため**SRC構造や配筋が密な構造物**では適用が困難ですが、接着工法では**適用可能**です。
- **(財) 日本建築防災協会の技術評価** (建防災発第12100号) を受けており、この評価内容で補強設計がなされれば、十分な耐震性があると認められています。

③ 施工方法

使用材料



ボンドE2370M

ボンドE2300T



④ 積算

お手数ですが、お問い合わせください

<http://ni-imo-dev.demopage.jp//contact/>

⑤ 公的認証

(財) 日本建築防災協会の技術評価 (建防災発第12100号)

国土交通省新技術情報(NETIS)

(CB-020033)

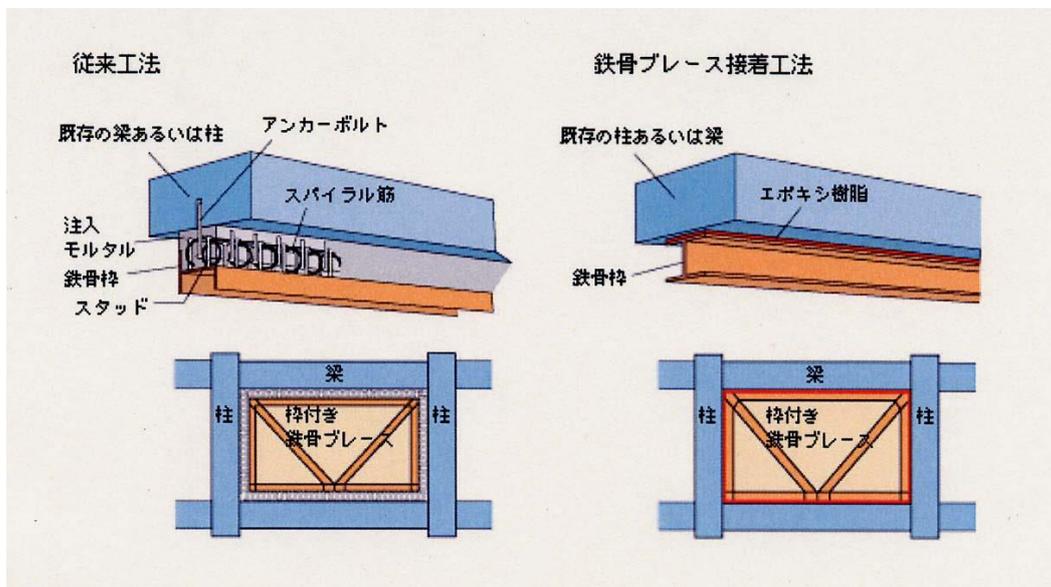
耐震補強工法

鉄骨ブレース接着工法



鉄骨ブレース接着工法は、鉄骨ブレース増設による耐震補強工法のひとつで、従来工法のあと施工アンカーによる間接接合部分をエポキシ樹脂による接着接合で定着する工法です。

主な特長

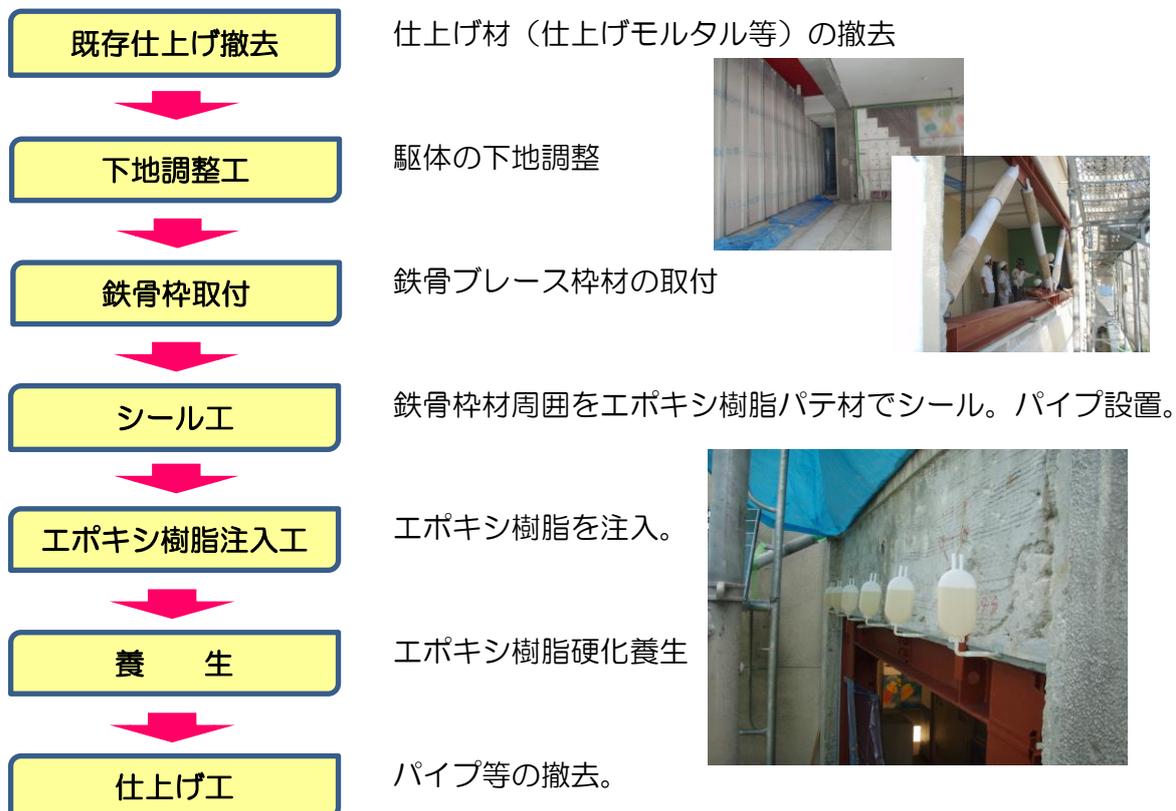


1. 振動・騒音・粉塵がほとんど発生しません。
あと施工アンカーの設置がないため、それに伴う振動・騒音・粉塵が発生しません。
2. 鉄骨ブレース設置の施工工程が少なく、工期短縮が可能。
従来工法による鉄骨ブレースの設置は、1 構面当たり14日程度必要ですが、接着工法では、工程が少ないため10日程度の工期で済みます。
3. 鉄骨ブレース補強のほとんどの建築物に、適用が可能です。
従来工法では、あと施工アンカーがあるため、SRC構造や配筋が密な構造物では、施工が困難ですが、接着工法では鉄骨ブレース補強の適用が可能です。
4. 信頼性の高い補強設計と施工体制
本接着工法は、(財)日本建築防災協会の技術評価(建防災発第12100号)を受けており、この評価内容で補強設計がなされれば、十分な耐震性が認められています。また、接着工法の施工管理体制も整えております。
5. 施工実績

施工は1000件以上の実績あります。

施工方法

鉄骨ブレース接着工法の施工手順は、以下の通りです。



使用材料

鉄骨ブレース接着工法では、主に下記の材料を使用します。

- シール材 ボンドE2370M
- 注入材 ボンドE2300T

お問い合わせ

鉄骨ブレース接着工法は、（株）竹中工務店より技術供与を受けており、（財）日本建築防災協会の技術評価（建防災発第12100号）を取得し、国土交通省新技術情報(NETIS)に登録されております(CB-020033)

ボンドエンジニアリング（株）では、施工並びに補強設計支援を行います。

鉄骨ブレース接着工法に関するお問い合わせは、弊社各支店、営業所までお願いします。